

令和2年度第2回香川県教育センター運営協議会 議事録

【日 時】 令和3年3月 17日(木) 14:00～15:30

【場 所】 香川県教育センター 4階第2中研修室

【出席者】 委員7名(欠席4名)、教育センター所長外4名

※傍聴人 なし

【議事概要】令和2年度事業実施状況及び令和3年度事業計画について

【主な質疑応答】

○調査研究事業について

委員	研究発表でオンデマンド配信をしたため、2,000 件ものアクセスがあったということで、大変多くの方に視聴いただいたと思うが、これを現職教育の時間に一斉に学校で見られないか。今までは教育センターで受講した人が学校に帰って報告していたが、報告はあまりうまくできないので、一緒な時間に、一緒に見ることができればよいのではないかと感じた。
事務局	オンデマンド方式は一定期間(2週間)があるので、その間に各学校が時間を取って、みんなで視聴してもらえればありがたい。2,000 件のアクセス数は、ID とパスワードを取得した人が主であるが、その人が学校や委員会等、代表となって取得していることも予想され、実際はもっと多くの人に見てもらっているのではないかと考える。
委員	学校で授業が行われている中で、出張で講演を聞きに行ける方は限られている。このような Web サイトでの配信で、配信期間をある程度設けてもらえるのは、大変有効だと感じる。
委員	2つの研究テーマのうち、どちらに関心が高いか、あるいは学校現場ではどちらに重点を置いて考えているかなど、そのようなことは研究発表会へのアクセス状況から分らないか。
事務局	情報教育のことに関しては来年度、1人1台端末が配備されるので、注目されているところがあるかもしれない。

○教職員研修事業について

委員	コロナ禍における研修に関するアンケートの回答で、「今後の研修の形態をあなたはどのように考えますか」という質問で、これを見ると従来の集合型を減らすべきが②、③、④の回答から6割となっているが、これはセンターとしてはどのように考えているか。研修自体はみなさん大事に思っていると思う。そのやり方について、「もう少し考えてほしい」という意思表示だと思うが、これは次年度の計画でそれなりに反映していくのか。
事務局	説明の中でも少し触れたが、基本研修の一部で講義型の研修について、オンラインで視聴する研修を行うこととした。しかし、教員の経験年数にもよるのだが、対面式の研修を希望する方が多い層もあるので、ニーズを見極めながら今後進めていく予定である。
委員	若い世代の方がオンラインを希望するということか。

事務局	むしろ初任者の方が、研修中止で横のつながりができなかったことから、対面を希望する声が多い。
委員	私も講義や会議等をオンラインで行っているが、やはり対面でないと表情や言葉じり、つぶやき等から相手の気持ちが察知できず、なかなか本音の話ができないことがある。私は対面型がよいと思っていて、リアルでないと人の成長、人の声、心に響く部分がちょっと欠けるのではないかと思う。今も研修の在り方に試行錯誤だと思うので頑張ってほしい。
委員	今年度の研修で、基本研修と職務研修に比べ、専門研修の中止となった割合が高いのはなぜか。
事務局	8月末までの教育センターで行われる集合しての研修が全て中止となった。専門研修は希望制の研修で、その多くを夏休みに企画していたため、専門研修の大半が中止となってしまった。
委員	それは専門研修も職務研修も、集合研修全てが8月末まで中止になったということか。専門研修は8月に集中的にあったということか。
事務局	代替を他の日に入れるのが困難であったため、8月末までの集合研修は全て中止となった。
委員	今年度、専門研修の多くが実施できなかったことを受けて、来年度に変更することはないのか。
事務局	専門研修は希望制で、授業のある期間に設定するとなかなか希望しづらい状況がある。そのため、次年度も先生方が研修に参加しやすいように夏休み中に集中させる形で計画する。
委員	来年度は夏休み中の研修を実施できるのか。
事務局	コロナ禍の状況次第とは思いますが、現状だとできると考えている。
委員	オンラインを活用するのではなく基本的に対面型なのか。
事務局	連携研修のいくつかについては、最初からオンラインという形で募集をかける研修もある。
委員	なかなか、まだ見通せないことがあるかもしれませんね。ちなみにオンラインの研修は何割ぐらいなのか。
事務局	数は多くない。研修の一部をオンラインに変更するものもある。連携研修の一部は終日オンライン形式で計画している。
委員	基本的には対面を基本にしているのか。
事務局	その方が多い。
委員	令和3年度の研修については、予想はできないようだが、基本的にどのような状況であれば実施できると考えているのか。今回、令和2年度は緊急事態宣言があり、それを受けて夏休みくらいまでなかったが、ウィズコロナの中で、どのような状況であれば研修を行うのか、その基本的なラインはあるのか。
事務局	現状において、県の警戒レベル5の感染拡大防止集中対策期になった場合、あるいは、本県を対象とする緊急事態宣言が国や県から出された場合は、学校が通常授業を継続していたとしても一旦研修は中止としたい。警戒レベル4の感染拡大対策期以下の場合

	は、原則として集合研修を実施する。現状においては、PCR 検査の対象となった方で陽性の方はもちろん、陰性であっても濃厚接触者で2週間の待機を命じられている方や検査結果が未確定の方、検査前の方は参加を控えていただく。また、発熱症状等のある方については、今年度と同様お引き取りいただく。特別支援学校の先生方は、児童・生徒が基礎疾患を持っている場合もある。子どもの命に関わることなので、そこは柔軟に対応していきたいと思う。
委員	アンケート結果の解釈について確認させてもらいたい。補足資料1ページ目の1-1代替措置として指定された自己研修で、「研修の成果は得られたか」という問いに対して、回答例の2番の「研修成果が得られたものもあった」というのは、これはポジティブに解釈してよいのか。ある程度余裕をもたせた回答になっているかと思うのだが、かなり幅があるように思うので、事務局の方はこれをどのように捉えて分析しているのか教えてほしい。
事務局	「得られたものもあった」ということなので、当然その反対分も含まれているということも認識している。我々の方としても、より①の回答が増えるように研修の内容を精査していかなければいけないと考えている。
事務局	アンケートの回答について、①・②が肯定的、③・④が否定的と、理解してもらえればと思う。

○教育相談事業について

委員	コロナ禍において、特異な事例や相談があったか。ネットのことや家庭の状況、いじめ等に関わる内容で、もしあれば教えてほしい。
事務局	コロナと直結した困り事かどうかは、推測を含むので言明を避けるが、社会全体の状況として、生活そのものが非常に窮屈になっており、子供たち、又は保護者の方々の健康、生活への不安等はあるのではないかと思う。
委員	センターに相談に来るといのは、大きな内容だと思う。ネットに関しては、ある程度時間を決めてというもそこそこはできているのか。
事務局	そこは、相談の状況からは分からない。
事務局	今年度については、コロナ禍や鳥インフルエンザの影響で家庭環境が急に不安定になった児童・生徒も存在するだろうと思う。世の中のいろいろな出来事を一方で頭の中に置きながら、相談活動を進めていく必要があると考えている。
委員	相談しやすいところがいっぱいある方がよい。相談できていることはありがたいことだと思う。相談までいなくてというところが、大変なところかなと推測できる。
委員	今ネットトラブルのことで話があったが、GIGA スクール構想で1人1台端末になると、端末を使うのが低年齢化するようになり、保護者の中には健康面で目とか身体に支障をきたすのではないかと、すごく心配されている方もいると聞く。端末を持って帰るようになれば、宿題だけに終わらずテレビを見たりゲームをしたりと、そのようなことが心配という保護者もいる。その端末を上手く利用すれば、すごく効果的だと思うが、そのような心配に対する相談事項は増えてくると思う。
事務局	1人1台端末の持ち帰りのことだが、各市町により対応は異なるかと思う。今のところ、県内

	<p>の各学校は、持ち帰らないという流れである。今後、国自体が持ち帰る方向で勧めてきた場合は、変わってくるかと思う。今のところ学校がしっかり管理をして、子供たちの健康面にも配慮しながら使用することになると思われる。次の段階になると、持ち帰りへの対応をしなければいけないかと思う。</p>
事務局	<p>相談の方では、ネットトラブル相談で「削除方法」や「ネット等でのいじめ相談」に対応しており、その他にもネットと子供との付き合い方やそのような子供とどう関わっていくかという保護者の悩みについての相談に対応している。</p>

○カリキュラムセンター事業について

委員	<p>研修サポート事業というのは、今年度コロナ禍ということもあったと思うが、年度内で派遣等、極端な偏りがなく、行うことができたのか。</p>
事務局	<p>2月末現在、435件という数がある。3月分が足されるので、多少の増加はあると思う。臨時休業中に先生方が研修を多く行ったという面はあったかと思う。</p>

○その他について

委員	<p>先ほど教職員研修の話にあったが、今どこの会社もそうだが、オンライン研修はかなり普及、浸透してきており、ものによってはオンラインで十分な研修が行えるということも結構多いと感じている。オンラインでの研修を、もっと増やしてよいのではないかと。通信環境などの整備をしなければいけないが、オンラインの研究を増やさないと、今年の夏もコロナの感染状況によっては、専門研修が軒並み中止になるのではないかと考えた。だいたいどこの民間もオンライン研修は普及してきていると思うので、その辺のことも検討してみてもよいのではないかと。</p>
事務局	<p>知識伝達型の研修を中心に、来年度はオンデマンド配信型の研修も計画している。協議等対面でする方が望ましいものは残しつつ、対面とオンラインでどのような形でやるのがよいのか、ベストミックスという視点で、今後も検討を進めていきたいと思う。</p>
委員	<p>オンデマンドとは何なのか。</p>
事務局	<p>一方向の配信型のことである。オンライン研修についても Zoom や Teams というリアルタイムで双方向に研修するものと、一定時間動画をアップしておき、一定期間で視聴してもらうタイプの研修と、両方ある。受講者にとっては一定期間で視聴する研修の方が負担が少なくなると思われる。知識伝達型の研修についてはさらなるオンライン化の導入を検討していく必要を感じている。しかし、対面でやった方がよいと考えられるものは、今後も対面で研修を行う。議論等交わす場面があるものについては極力集合で実施したいと現在考えているのだが、今後検討が必要である。</p>
委員	<p>オンラインで結んで双方が顔を見てやりとりできる Web 会議形式が、もっと普及すればよいと思う。例えば、専門研修で「Web 会議システムを活用した授業づくり」などを、Web 会議を利用して研修ができたと思う。</p>
事務局	<p>今年度、コロナで受講者本人は元気だが受講するのは難しいという状況の人について</p>

	<p>は、センターで行っている研修を Zoom でリアルタイムに配信して、学校で受講してもらったというケースがあった。そのような対応を今後も柔軟に行っていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>学校現場において、コロナ禍での行事を行う難しさというはある。行事をしたい気持ちはあるのだが、させたくないという保護者からの意見も結構ある。何が正解なのか分からない。誰もが納得する制度のようなものがないのが現状である。もし、学校でクラスターができると教員が非難を受けるだけでなく、子供たち、さらには子供たちの家族までもが非難をあげる可能性もある。それを考えた時に、やはりなかなか研修を行うというのは難しい。先ほど、オンラインにしたらどうかという話があったが、講義式はオンラインでよいが、Web を使ってどのような授業をしていくのかという研修になると、授業を見る視点がたくさんあって教員の手元だけ映しておけばよいというわけではない。子供たち 1 人 1 人の学習の進み方を見たり、子供たちの反応をじっくり確かめたりするには、対面式の研修が必要となってくる。今までよりも、主体的な学びを促進する授業の在り方を求めていかなければならない。</p>